



研究室での経験

花卉園芸学研究室修士課程1年

長谷川 春 佳

松戸研究室における夏の風物詩は「圃場の草刈り」です。今年の夏も快晴の空の下、刈払機を使って草刈りをしました。少ない人数での草刈りはかなりの重労働ですが、自分が通ったあとが綺麗に刈り取られているのを見ると、達成感を感じます。冬が近づくと今度は、寒さ対策を始めます。内貼りが必要なハウスではみんなで協力して、内貼りを張っていきます。共同作業では圃場の草刈のほかに、ハウスの補修や正門周辺の掃除も行っています。共同作業では圃場整備だけでなく、研究室の誰かの植物管理を手伝うこともあります。共同作業以外でも、教育実習中の灌水を手伝うなど、一人ではできないことも、研究室全体で力を合わせて実験に取り組んでいます。

現在研究室ではコチョウラン、エビデンドラム（ラン科）、ダリア、フロックス（ハナシノブ科）を栽培しており、学生それぞれが違う植物を研究対象としています。

私が栽培しているのはフロックスの中でも1年草である、*Phlox drummondii* L.（和名：キキョウナデシコ）です。1.5cm程の花を総状につけるこの植物は、赤、青、白、紫、ピンク、クリーム色の花を咲かせます。開花の最盛期にはハウスの中で、色とりどりの花の絨毯が出来上がり、私の目を楽しませてくれます。栽培は比較的簡単ですが、暑さに弱いので、夏場は遮光カーテンのある風通しのよいハウスへと引っ越しさせます。暑さに弱いのは私の植物だけでなく、ランを使っている後輩たちも夏になると、昨年ランを使っていた先輩に対処法を聞いたりしながら四苦八苦して栽培していました。

P. drummondii は四季咲き性なのでうまく管理すれば冬にも花を咲かせてくれます。昨年の冬も少しだけ花を見ることができました。実験植物の栽培管理は1年を通じて様々な作業があり、大変なことも多いですが、手をかけた植物が美しい花を咲かせる様子は心を和ませてくれると同時に、小さな達成感を感じます。もちろん実験で欲しかったデータや結果が得られることでも、大きな達成感を感じています。それだけでなくコツコツと管理し、毎日様子を見ながら「今日はここまで大きくなったな」とか「明日には花が咲くかな」、

「次はどの品種が咲くかな」と植物の日々の成長を楽しみにしながら、実験と栽培を行っています。

特に私は研究室に入るまで *P. drummondii* という植物を見たことも、聞いたこともなかったので、その植物がどんな形態でどのように育つのか、またどんな性質を持つのか、育てながら観察していくのはとても楽しみでした。栽培に関してはうまくいかなかったことも、うまくいったこともたくさんありましたが、初めて触る植物を先生に助言をいただきながら、原因と対策を考えながら栽培していくことはとてもいい経験になったと思います。

植物の栽培だけでなく、大学祭や種取りなど研究室のイベントでしてきた様々な経験も、これからいろいろな場面で役立つと思うのだと思います。大学祭でどの花を仕入れるか、新歓はどこにするのか、追いコンは何をするのかなど、様々な所で協力しあい、時には助言をいただきながら進めていった経験を、これから生かしていくのもまた経験だと思います。

今年、松戸研究室には新たに3人の学生が配属され、合計11人の学生が所属しています。研究内容も培養や染色体観察、色素分析や遺伝子調査など様々です。

研究室ではお互いの研究について意見を交わしながら協力し、ときには研究ではない話に花を咲かせながら、過ごしています。新たに入った学生とともにこれからも切磋琢磨しながら、研究を進め、その経験を活かしていきたいと思っています。

